

1 柴山昌彦文部科学大臣の中央教育審議会での諮問 平成 31 年 4 月 17 日（抜粋）

【新しい時代の初等中等教育の在り方について】

・中央教育審議会において審議をお願いしたい事項（一部抜粋）

1. 新時代に対応した義務教育の在り方

○義務教育 9 年間を見通した児童生徒の発達の段階に応じた学級担任制と教科担任制の在り方や、習熟度別指導の在り方など今後の指導体制の在り方

4. これからの時代に応じた教師の在り方や教育環境の整備等

○義務教育 9 年間で、学級担任制を重視する段階と教科担任制を重視する段階に捉え直すことのできる教職員配置や教員免許制度の在り方

2 音楽専科の配置状況

- ・ 13 学級以上の学校には教員が 1 名増として配置され、音楽専科となることが多い。
- ・ 12 学級以下の小学校を対象に「音楽専科」非常勤として配置している。
- ・ これにより音楽専科は全校配置となっている。

(1) メリット

- ① 担任の担当授業時数が減るため、その時間を活用し学習評価・教材研究等の業務ができる。
- ② 児童生徒は、より専門性のある指導が受けられる。
- ③ 音楽専科が評価まで担当するので担任の負担軽減になる。

(2) デメリット

- ・ なし。

3 専科教員等の取組

(1) 交換授業の実施

現在、市内小学校では一部の学校において自主的に交換授業を実施している。

(ア) 取組例

- ① 同学年内で、それぞれの教員が専門とする教科の授業を担当する。
- ② 教科担任制で実施されている教科（例）

交換授業として実施することから、授業時数が同一または近い教科で実施。

例 1) 理科（週 3 時間）と社会（週 3 時間）の交換授業

例 2) 図工（週 2 時間）と家庭（週 2 時間）の交換授業 など

(イ) メリット

- ① 担当する教科が一つ減ることから、教材研究にあてる時間が少なくて済む。その分を他の業務に使うことができる。
- ② 同様に、授業準備も同一の教材を使用できるため内容の充実と時間削減につながる。

(ウ) デメリット

- ① 担当できる教科が無い等の場合は、実施できない。
- ② 教室移動、授業準備を要する授業の場合事前準備が必要になり、その時間の自学級児童対応教員が不在になる。

(2) 専科授業の実施

- ・ 現在は音楽専科のみ実施。
- ・ 他教科での専科としての配置はなし。